

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 23 年 4 月 28 日 (2011.4.28)

【公開番号】特開 2009-30035 (P2009-30035A)

【公開日】平成 21 年 2 月 12 日 (2009.2.12)

【年通号数】公開・登録公報 2009-006

【出願番号】特願 2008-167214 (P2008-167214)

【国際特許分類】

C 1 1 D 3/395 (2006.01)

C 1 1 D 17/04 (2006.01)

C 1 1 D 1/62 (2006.01)

C 1 1 D 3/34 (2006.01)

C 1 1 D 1/04 (2006.01)

C 1 1 D 3/04 (2006.01)

【 F I 】

C 1 1 D 3/395

C 1 1 D 17/04

C 1 1 D 1/62

C 1 1 D 3/34

C 1 1 D 1/04

C 1 1 D 3/04

【手続補正書】

【提出日】平成 23 年 3 月 10 日 (2011.3.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

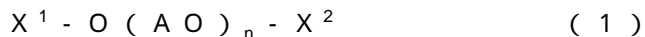
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

( a ) 次亜塩素酸アルカリ金属塩、( b ) 陽イオン界面活性剤、( c ) 下記一般式 ( 1 ) で表される化合物を含有し、( b ) 成分と ( c ) 成分とのモル比 ( c ) / ( b ) [ 但し、( c ) 成分において、 $X^1$  と  $X^2$  との両方が  $-SO_3M$  又は  $-CH_2COOM$  である場合、当該化合物のモル数に 2 を乗じる ] が 1 以下である漂白剤組成物を、噴霧手段を備えた容器に充填してなるスプレー式漂白剤。

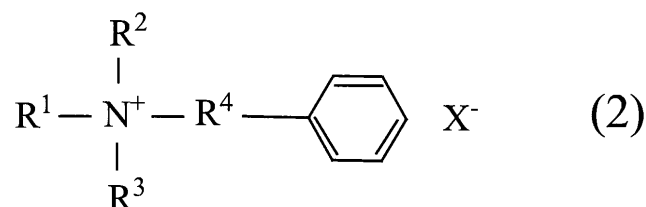


[ 式中、AO は炭素数 2 ~ 4 のアルキレンオキシ基、n はアルキレンオキシ基の平均付加モル数であり 5 ~ 150 の数を示す。 $X^1$ 、 $X^2$  は、それぞれ水素原子、 $-SO_3M$ 、 $-CH_2COOM$  ( M はアルカリ金属原子 )、炭素数 1 ~ 6 のアルキル基を示し、 $X^1$ 、 $X^2$  が同時に水素原子、アルキル基になることはない。 ]

【請求項 2】

前記漂白剤組成物における ( b ) 成分が、下記一般式 ( 2 ) で表される陽イオン界面活性剤である、請求項 1 記載のスプレー式漂白剤。

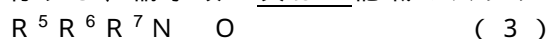
## 【化 1】



(式中、 $\text{R}^1$ は炭素数6～12のアルキル基、 $\text{R}^2$ 及び $\text{R}^3$ はそれぞれ独立して炭素数1～3のアルキル基、 $\text{R}^4$ は炭素数1～3のアルキレン、 $\text{X}^-$ は対イオンを示す。)

## 【請求項3】

前記漂白剤組成物が、更に、(d)下記一般式(3)で表される第3級アミノオキサイドを含有する、請求項1又は2記載のスプレー式漂白剤。



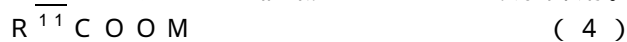
(式中、 $\text{R}^5$ は炭素数8～20の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を示し、 $\text{R}^6$ 、 $\text{R}^7$ はそれぞれ、炭素数1～3の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を示す。)

## 【請求項4】

前記漂白剤組成物が、更に、(e)ベンゼン環を有するハイドロトロブ剤を含有する請求項1～3のいずれかに記載のスプレー式漂白剤。

## 【請求項5】

前記漂白剤組成物が、更に、(f)下記一般式(4)で表される化合物を含有する、請求項1～4のいずれかに記載のスプレー式漂白剤。



(式中、 $\text{R}^{11}$ は炭素数6～22の直鎖又は分岐鎖のアルキル基を示す。Mは水素原子、アルカリ金属原子又はアルカリ土類金属原子を示す。)

## 【請求項6】

前記漂白剤組成物が、更に、(g)アルカリ金属の水酸化物を含有する、請求項1～5のいずれかに記載のスプレー式漂白剤。